

令和4年度 第2回 学校運営協議会

1 日 時 令和4年10月4日(火) 午前9時30分から午前11時まで

2 場 所 静岡県立伊豆の国特別支援学校 会議室

3 参加者

○学校運営協議会委員

若林 高至 様 なのはな相談室 室長
山田 芳治 様 社会福祉法人春風会 障がい統括施設長
中村 裕子 様 伊豆の国市韮山地区 民生委員・児童委員 主任児童委員
東方 慶 様 三島市手をつなぐ育成会 理事
山元 薫 様 静岡大学 教育学部 特別支援教育 准教授
宇佐美 祐三様 伊豆の国特別支援学校 P T A会長

○教職員

校 長 早田 公子 副校長 廣瀬かよ子 教 頭 植松 隆洋
事務長 鈴木 健夫 小学部主事 渡邊 康子 中学部主事 水野 靖弘
高等部主事 伊賀 美紀 教務課長 岩谷 俊宏

4 内 容 【進行】山元コーディネーター

(1)開会

(2)校長挨拶

(3)校内及び授業参観

(4)協議等

令和4年度学校経営の進捗状況について
学校運営協議会委員から感想や質疑

(5)閉会

5 議事録

校長挨拶

校長 本校の学校教育目標を受けて、今の学校のよさを2点紹介させていただく。
・よりわかりやすい国語算数数学の授業を目指して研修を積み上げている。
国語算数数学以外にも、教師の指導が明確に、そして児童生徒が主体的に取り組む様子が見られている。
・東田直樹氏の講演会を実施した。講演会では、東田氏の自宅での「日常の姿」を見ることができた。講演会の後、教師が児童生徒たちの「目に見える行動」と「目には見えない所で感じていること」に気を配れるようになった。児童生徒が何を感じ、何を考え、何をしたいと思っているのか…に思いを馳せる教師が増えてきた。
校内参観で、是非児童生徒の活動の様子をじっくりとご覧いただき、御意見・御助言をいただきたい。

部主事 つなぐつながるプロジェクト経過報告

4月から9月の実績を資料とパワーポイントにて説明

校内参観・経営の進捗説明（主につなぐつながるプロジェクト）後の感想・意見等

- 委員
- ・2年目、コロナ禍の中で、ここまでできているのがうれしい。
 - ・地域資源をうまく活用するためには、修学旅行先を伊豆半島にするなど、違った角度で見えてみるのが大切。
 - ・運営協議会メンバーからも、地域資源の情報をたくさんもらおうとよい。
- 委員
- ・行動制限がある中でアイデアを出して、小中高それぞれが取り組んでいるのがよい。
 - ・伊豆の国市のなぎの木を取り入れていることもすばらしい。
 - ・高等部の作業製品は質が高く、B型事業所としては刺激となる。
 - ・伊豆の国市のトマトは生産量が県内一。トマト農家は、他の地域から移り住むニューファーマーが多い。学校が地元出身ではない方と連携を図ることは地域にとってもよいこと。
 - ・継続して取り組めば、さらにより学校になる。
- 委員
- ・校内の掲示を見ても、昨年より児童生徒の活動が増えているのがわかる。校外での活動、学校間交流も進んでいるのがわかった。学校が「動いている」感じがする。
 - ・先日、地元の民生委員の見学をさせてもらった。四日町や寺家の人達は、回覧板でまわる学校の案内をよく見て関心をもっており、校内に入れてよかった。四日町や寺家地区以外の地域の人も、見学をできてよかったと言っていた。見学の中で、障害者の就職のことなど詳しい説明もしてもらって参考になった。
- 委員
- ・校長が話したとおり、児童生徒たちが「前のめりに取り組む」様子がよくわかった。教師が、うまく興味を持たせ、ひきつけることができていた。
 - ・修学旅行を伊豆に変更。身近だが意外と知らない所を、学校行事や学習として知る機会になったのがよい。
 - ・交流などで校外へ出て地域の人に会う機会は、相手にも児童生徒たちを知ってもらう機会になるのでよい。
- 委員
- ・つなぐつながるプロジェクトは非常に的を射た取り組みである。
 - ・先日、別の講演会で聞いた話。「障害のある人がいて、それを支える人達のまとまりがある。支える人のまとまりには保護者や教師や学校があり、さらにそのまわりに大きく社会がある。しかし、その障害者と支える人のまとまりは、社会全体で見ると社会の端の方にあったり、場合によっては社会の外にあたりする。なるべく社会の真ん中にあるようにしていこう」

- ・社会は、行政や企業やいろいろなものがある。学校は学校、教育は教育、福祉は福祉とそれだけに完結せず、大きな視点で見えていかないと社会とのつながりがうまく出来ない。それぞれの役割や居場所が、社会の中でうまくつながれるようにしたい。

委員

- ・学校運営員協議会の目的は、学校ごとの課題によって特色がある。
- ・伊豆の国特支の特色や目的は、「教師は啓発、児童生徒は社会とどのようにつながっていくか」が、開校2年目の現在のミッションである。
- ・小中高全体の取り組みをみると、それぞれが地域のヒト・モノ・コトと、きちんと関わっている。教育の営みの中でナチュラルに、できているのがよい。地域の産業・歴史・文化と質の高いものに関わっている。自然な営みの中でより社会とつながるために、その調整を行うのが本協議会となるのがよい。
- ・今後の課題として、もう一度目的を見直す。ただ関わればよいというものではない。目的をシェイプアップする必要がある。そのためには、実践の中で起きた課題や悩みもこの協議会で出すことでメンバーの力を生かすことできる。学校と一緒に解決できるようにしたい。

校長

本年度、開校二年目も半分が経過。今年度は取合えず、「つながれるところとつながろう」とつながりを試みた。だが、今後継続していくためには、どのように学習と結び付けて、積み上げていくか考えなければならない。

今は開校直後で、大変でも新しいものを作る意欲に溢れている。しかし長くやっていると「多忙感」「やらされ感」も出てくる。

今のうちに交流の成果を分析し、児童生徒にどう積み上げていくか、少しずつ精選して整理していく必要がある。協議会に参加しているメンバーは、直接子どもたちの指導にかかわっている教員から、一歩引いた大きな視点をもって見ていく必要がある。

まだまだつながる先を開拓し、広げつつ、かつ整理して、やりがいを持って教師が取り組めるようにしていきたい。